

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬、松本市ホテルプエナヒスタで開催された松本信用金庫春季講演会「小惑星イトカワの旅・小惑星探査機はやぶさの挑戦と

成果」を聴講する。講師は、川口淳一郎氏で、佐野史郎さん・渡辺謙さん・大杉漣さんなどの俳優が演じた人物でもある。

高いところにはがらなければ水平線は見えて来ない」宇宙工学分野を指す人間性が強く伝わってくる。

大なトラブルで帰還が大幅に延期されたが、地球重力圏外にある天体の固体表面に着陸してサンプルリターンに

画面に映し出しながら、ゆっくり伝えながら展開する内容に講義時間の90分は、瞬く間に過ぎて行った。印象に残った言葉、「やれる理由こそが着想を生む」「ガバナンスさえ

えた時、宇宙機と航空機の境界が無くなる時代は、もうすぐ。誰もが宇宙飛行する時代。宇宙開発と経済の視点で、「先に宇宙開発に

との言葉が、日本の宇宙開発での現状の厳しさが切なく伝わった講義でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

1955年に青森県弘前市に生まれ、京都大学を卒業し東京大学大学院工学系研究科航空学専攻で修士課程を修了後、文部省の

講義は、2003年に打ち上げられた探査機「はやぶさ」と日本の地球開発の父、糸川の地球開発の父、糸川

世界で初めて成功、地球に持ち帰った試料がなかった小さな惑星

「共同体の意識」「迷惑をかけるべきでない」「阿吽の呼吸、空気を読め」「上しか見ない、ヒラメのようなヒラメ人間になるな」「物事、自由な発想が大事」どの職種、職場にも当てはまる内容を、真剣に書き取る経営者。この努力の積み重ねが大切なのだろう。最後に、人間が宇宙へと考

宇宙科学研究所をスタートに研究者の道を進んだ宇宙工学者だ。特に制御システム論や応用飛行力学といった分野の第一人者だ。趣味は、「非常に遅く泳ぐこと」、信条は「どんなに定元を固めても、

宇宙に挑戦する人間性と迫力と夢に感動する大切さを知る

秀夫氏にちなんで「イトカワ」と命名された地球近傍小惑星の話だと予想していた。地球軌道との距離が小さく、半径160mあるため、潜在的に危険とされる小惑星。降下・接地時の問題などの重

つ。伝えたい内容を、

プロジェクトに映し出される内容の外部流出防止目的か会場内での写真撮影は禁止された



プロジェクトに映し出される内容の外部流出防止目的か会場内での写真撮影は禁止された